

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201913		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌麻生 (ライラック)		
所在地	北海道札幌市北35条東1丁目5-7		
自己評価作成日	令和4年6月22日	評価結果市町村受理日	令和4年8月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190201681-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年7月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ツクイ札幌麻生はグループホーム以外にもデイサービス、訪問看護ステーション、看護小規模多機能型居宅介護サービスを提供しており「元氣から看取りまで」をコンセプトに運営しております。訪問看護ステーションから週1回の健康管理を行っており、お客様の体調があった際にもすぐに連携がとれる体制となっております。重度化されても安心して過ごして頂けるように電動ベッドを各居室に完備し、機械浴も設置しております。最後までケアに臨める環境も十分にございます。健康面では、ミール食を提供し栄養バランスを考えた食事の提供を行っております。毎月の会議の中で虐待や身体拘束禁止に向けての話し合いやチェックリストを活用し取り組んでいます。その中で認知症の理解を深めることにも学びの時間を設け取り組んでいます。共同生活の場としては、ご入居者様が役割を担い、交流の場を作りながら家事諸々を行い、ADLの維持や認知機能の低下を予防する為に生活リハビリを促進し残存機能を活かす取り組みを行っています。「できることはご自身で」を意識しております。職員一同、ご入居者様が生き生きと安心して生活を送ることができるよう共に生活して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商業施設が立ち並ぶ幹線道路や地下鉄駅に程近い距離に位置する開設5年目の事業所である。鉄骨造2階建て1階に看護小規模多機能、訪問看護ステーション、デイサービスがあり2階がグループホームである。法人指導の下にコンプライアンスを管理する仕組みがあり内部監査制度や職員教育にeケアラボを導入し安定的な研修体制を敷くなど、分野別にもシステムが構築され組織運営のマネジメント力が高い。令和6年4月から義務化となる自然災害における業務継続計画が既に策定され、今後に向け取り組みも表明している。身体拘束・虐待禁止委員会を2か月に1度開催し職員間で多様な事例を通じ意見交換を行い、理解浸透を図っている。地域交流や外出レクは感染対策上自粛だが、室内で楽しめる行事やイベントを職員アイデア満載に企画し、利用者が生き生きと過ごせるよう豊富に提供している。生活リハビリを中心に体操や脳トレ、好みの映像の視聴なども交え利用者個々に応じた身体・認知機能低下予防に努めている。家族への報告は元より運営推進会議書面や個別便りで詳細に発信している。医療との連携を図り24時間365日の安心体制を築き、看取りケアの体制も整え居室にはエアコン、電動リクライニングベッド等を完備し充実した環境である。介護計画の取り組みも優れ、カンファレンスを重ね支援のあり方の見直しにつなげ最良の生活ができるようにしている。事業所が掲げる3つの志が全体及び個々のサービスに息づいている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ライラック)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内に掲示し、会議の時に理念を唱和している。	事業所の理念は3つの志として標榜しており、パンフレットへの明示や各ユニット内の要所へ掲示している。「笑顔とありがとうの言葉が溢れる場になるように目指します」の志では、マスク越しでも職員の笑顔が利用者に届けられるように目の表情に気をつけるなど、意識高く実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では町内会長をはじめ民生委員も参加して頂いているが現在は書面開催にての意見交流を求めている。ご近所の方会った時には挨拶を交わしている。	開設当初より利用者が地域で暮らし続けるための基盤を整え、豊かな地域交流を育んでいたが自粛となっている。運営推進会議の書面会議へ地域関係者の協力が得られており、また、散歩の折に挨拶を交わすなど接する機会を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアのあり方についてお伝えすることにより、地域に広がっていくよう努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回、計画的に開催しサービス提供の内容報告を行っている。現在は書面開催にて、ご家族様や委員の方には意見を頂けるようにしているが、意見が少なく報告が主になっている。	2か月に1度、関係者へ運営状況を書面で報告し意見等を得る仕組みのもとに運営している。利用者の状況や具体的なヒヤリハット等が掲載されている。地域包括支援センターからは危険事故防止をモニターできる書面報告が今後も継続的発信となるようフィードバック評価を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月初に入居者の状況報告を行っています。	市の集団指導が昨年参集にて開催され、当事業所からは所長が出席して感染症・防災対策、加算、36協定、ICTにおける個人情報保護等の多岐に渡る指導や助言、情報を受け、適正な運営の維持と適切なサービス提供に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議の中で身体拘束廃止の取り組みについて研修等で確認している。職員全員が身体拘束ないケアを実践している。認知症の重度の方でも薬の使用は最低限にシドラッグロックを行わないよう支援している。	身体拘束禁止と虐待防止に関する指針を定め、身体拘束・虐待禁止委員会を2か月に1度開催している。内部研修は年2回以上実施し、認知症の人の権利をみんなで考える小冊子の資料を元に虐待や身体拘束を考える学びも行き、職員意識を高めている。ユニット玄関は施錠しているが、利用者の気持ちに寄り添い抑圧感の無い対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束禁止の研修と一緒に2ヶ月に1回研修を行っております。チェックリストを活用したり面談を行い職員がストレスを溜めないようコミュニケーションを図るように意識している。		

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ライラック)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての研修等は行っていない。現在、成年後見制度を活用されている方はいません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分理解して頂けるように説明している。疑問があった際にはお答えして対応している。解約、改定の際もその都度同様に十分な説明に努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の時に意見書を送付した際におやつ作りの提案があり実施しお便りでお知らせした。要望を反映できるように共有している。	家族からは、毎月の通信の発行により本人の様子を知る事ができるとの感想等が出されている。おやつ作りの提案を受け支援に結びつけるなど、要望や意見等を貴重なものとしてサービスに反映させている。利用者の意向や要望については具体的な個々の支援に結びつけ対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や個別面談で職員の意見や提案を聞き取っている。要望のある備品の購入も可能な限り対応するようにしている。	職員の意見や提案は、会議等の際に率直に出されており、管理者も現場に入り、意見や情報を取り入れ一緒に話し合いながら調整している。年2回所長と管理者が職員面談を行い、人事考課と共に業務に係る指導や助言、意見要望を聞き取り向上心を持って就業できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業契約更新時には個別に面談を行い向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ツクスキというツクイの研修資料を使って入社時に必ず研修を行っている。Eケアラボの視聴動画を活用して自らが学ぶ機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内で多職種と交流する機会がある。待機者のCMへ連絡する機会を設けて定期的に意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ライラック)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には自宅や施設等に訪問したり基本情報をご本人やご家族、関係機関より情報収集し居宅等からの生活の継続に配慮している。入居の際にも生活歴をお渡しし記載頂き把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご本人の生活の様子やご家族の思いを確認し受け止め、関係作りに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望を把握し、必要としている支援を見極めて安心して入居に繋がるニーズの確認を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で得意なことを引き出し職員の見守りや一緒に行うことを基本とし関わりや会話を通して共に助け合いながら生活をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、お便り等でご本人の状態を報告し日常生活の様子についてご家族と共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話やお手紙の支援や事前予約の上、面会等を通して共に過ごして頂ける時間を大切にしている。お墓参りには出かけている。	面会は家族に限り、相談室で人数制限等の感染対策を講じて対応している。利用者自身の携帯電話で家族と話したり墓参りに一緒に出かけている利用者もいる。本人の必要な物品や嗜好品の差し入れ、花や手紙が届けられるなど家族の支えも得ながら関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の相性や生活も考慮し、食卓席の配慮やトラブルに発展する前の介入等に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ライラック)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族の心身状況を汲み取り必要時に支援や相談に応じられるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や様子から思いを把握し、本人の意思を大切に尊重しながら実現できるように支援している。ユニット会議内でも意見交換しながら、その人らしさが反映できるように検討している。	職員は利用者1人ひとりの言動や表情により、思いの把握に努めている。日々気がついた点はSCOPに入力し情報を蓄積している。月2回のカンファレンスで意見交換を実施し、本人本意・本位を検討してより良い支援に向けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴等を記入して頂き職員間で共有すると共にご本人との会話やご家族に確認したりと得た情報も記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報の共有、交換を行っている。日常生活の言動や行動を送り・連絡ノート、アセスメントに記載している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本3ヶ月毎に見直し、担当でモニタリングを実施している。ご本人、ご家族の要望や医療連携での指示を確認しながら職員間で確認を行い介護計画書の作成を行っている。	介護計画は基本3か月ごとの見直しである。介護目標等に応じた実績・評価のモニタリングとアセスメントを詳細に実施し、本人の状態像の分析が行われている。関係者間の意見も確認し新たな計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の個別ケアや申し送り、連絡ノート等を活用し情報共有を行い実践や見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内の看護小規模多機能やデイサービス等も視野に入れ今までの繋がりを断ち切らないことを考え取り組めるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍の為交流の機会は少ない。訪問理美容の利用や1階にあるデイサービスとの行事交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療及び訪問歯科治療を行っている。医療連携により訪問看護師による週1回の健康管理を行っており、24時間連絡体制が整っている。	協力医療機関の往診体制はもとより、他の医療機関の訪問診療を受けている利用者もいるなど個々の医療機関と協力関係を築き適切な医療が受けられる支援体制が構築されている。週1回医療連携で看護師が訪れ、利用者の健康管理を行い状態観察を行っている。	

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ライラック)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の訪問看護師が週1回健康確認を行い職員からの情報提供を行い共有している。その時の状態をタブレットに入力し内容を確認している。24時間連絡体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は介護・看護添書を速やかに病院へ提供し情報共有を行っている。担当者に細目に電話連絡を行い連携を図るように努めている。退院後の受け入れについても状態を把握した中で職員間で話し合い準備を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りや重度化に伴う指針の説明を行っている。訪問診療先やご家族と共に現状やこれからの話合いを行う場を設けている。	「重度化した場合の対応に係る指針」と「看取りについての事前意思確認書」を利用契約時に説明し同意と確認を得ている。終末期には再度、家族の意向を確認し、関係者間で方針を共有し合意形成を図っている。eケアラボで看取りについて研修を行い対応力を養っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し連絡体制を整えている。定期的に研修は行っているが、実践はできていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。地域住民や消防署の協力を得た訓練は現状できていない。	令和3年5月、今年6月に夜間想定火災避難訓練を実施している。感染症の流行により消防署と地域住民の参加は見送られている。災害備蓄品を確保し、自然災害における業務継続計画(BCP)が策定されている。非常災害対策の基本的行動について研修を実施している。	水害対策に特化した訓練と備蓄管理のあり方を含め非常時持ち出し動線の見直しに着手する意向である。災害はいつ発生するかかわからず初動体制も肝要である。効果的な訓練の積み重ねによる災害対策の強化に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活環境や性格を考慮し自尊心に配慮したケアを工夫している。声のトーンや大きさにも配慮しながら声掛けを行っている。	利用者の尊厳を尊重した介護のあり方を研修や委員会等で学び、誇りやプライバシーに配慮したケアが実践されている。個人記録はICTを活用し情報を管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意見を確認しながら重視し、気持ちに配慮した支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを尊重しながら、確認、見守りをして支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの好みに応じて、言葉掛けや見守りを行い、自己決定して頂けるように支援している。		

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ライラック)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介助が必要な方もできる範囲でご自身で食事ができるように配慮している。好き嫌いを把握しながら提供している。お手伝いはその方ができる範囲の物を把握し見守りや一緒に行うようにしている。	調理専門の職員が主食と汁ものを用意し、会社から届く栄養バランのとれたミールキットと一緒に調理して提供している。行事食は季節や内容に沿った物を提供し、時々食べたい物を聞き取っている。彩りよく盛り付け利用者が楽しめる食卓である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分量を把握し不足しないよう確認し支援している。その方にあった量で提供している。ミールの調理品を使用し栄養バランスを考えた食事を提供できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。自立や介助を交えて支援している。お客様の状態に合わせた道具を使用し清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	場所を分かりやすくするためドアに目印を付けたり工夫している。排泄表を確認しながら声掛けや誘導支援を行っている。申送り表に排泄状態を記載して職員間で状態の把握を行っている。	全員の排泄記録を行い、誘導が必要な利用者には経過時間を確認しトイレ誘導している。ベッド上で排泄用品を交換している利用者も排便の様子が見られる場合はトイレ誘導を行い、トイレで気持ちよく排泄できるように対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や粉末の食物繊維・オリゴ糖を取り入れている。トイレ時に腹部マッサージ等を行っている。個々に合わせた下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を個別に実施しコミュニケーションを図りながら支援している。その日の気分や体調に応じて時間や日にちを変えたりと対応している。	日曜日を除く曜日の午前の時間帯を基本にした入浴体制である。職員2名介助が可能な場合は、シャワー浴対応の利用者も湯船に浸かっている。入浴を見送りたい利用者へは時間を置いたり翌日に変更することで対応している。1名ではあるがデイサービスの大浴場を貸し切り、浴衣も用意し温泉気分を味わう支援を提供した。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や活動量を確認しながら、日中休息時間を取って頂いている。夜間は室温等に配慮して安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をファイルに入れて確認している。変更等があった際には申し送りにて情報を共有している。個別の服薬一覧表を作成し服薬前に確認し、服薬もれや誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の思いを大切にしつつ、生活歴や状態を考慮しそれぞれに合った役割やレクリエーションを提供できるよう努めている。		

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ライラック)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて外出支援はできていない。施設周辺の散歩を取り入れ外気浴を行っている。	感染対策のため以前のような外出行事は自粛しているが、事業所周辺の散歩に出かけ外気浴を心がけている。家族対応で通院した場合は家族と一緒に外出を楽しみ、墓参にも家族同行で出かけた利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の希望を伺い、管理が可能であれば少額所持できるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会ができない時にはリモートでの面会を希望するご家族には対応できるようにしている。ご本人が希望する時にはいつでも電話ができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置、音や光、温湿度の調整に配慮している。フロア内は全てバリアフリーとなっている。又季節に合った装飾を行い、季節感を感じていただけるように工夫している。	共用空間は明るく広い作りで、エアコンや加湿器、空気清浄機で空調や湿度を管理している。季節が感じられる装飾を利用者と一緒で作成し掲示している。日課の各種体操やゲーム、脳トレ、カラオケ、DVDでコメディーを視聴するなど、楽しく過ごせる場づくりを行っている。見当識への配慮ではカレンダーの他に日めくりも設置して混乱が少なくなるよう快適な環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で過ごしている時には見守りご本人のペースで過ごせるように配慮している。気の合う仲間同士で寄り添える場所や空間の確保に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、ご本人・ご家族で話し合い馴染みの家具や道具を持って来ていただき、居心地よく過ごせるように工夫をしている。配置にも考慮している。	エアコン、クローゼット、カーテン、ナースコール、電動リクライニングベッド等が設備されている。馴染みの家具や調度品が持ち込まれ、安心して過ごせる設えを家族と共に整えている。居室で過ごす時間も大切に考えその人らしく過ごせる環境に配慮している。ラジオや本が傍にあり自分で作成した作品、家族の写真が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー・手すり設置により安心して移動できるようにしている。フロア内に時計やカレンダーを置き日付の確認等が出来るようにしている。居室前に名札を付けて迷わないように工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201913		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌麻生グループホーム(すずらん)		
所在地	北海道札幌市北35条東1丁目5-7		
自己評価作成日	令和 4年 6月 22日	評価結果市町村受理日	令和4年8月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190201681-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年7月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ツクイ札幌麻生はグループホーム以外にもデイサービス、訪問看護ステーション、看護小規模多機能型居宅介護サービスを提供しており「元気から看取りまで」をコンセプトに運営しております。訪問看護ステーションから週1回の健康管理を行っており、お客様の体調があった際にもすぐに連携がとれる体制となっております。重度化されても安心して過ごして頂けるように電動ベッドを各居室に完備し、機械浴も設置しております。最後までケアに臨める環境も十分にございます。健康面では、ミール食を提供し栄養バランスを考えた食事の提供を行っております。毎月の会議の中で虐待や身体拘束禁止に向けての話し合いやチェックリストを活用し取り組んでいます。その中で認知症の理解を深めることにも学びの時間を設け取り組んでいます。共同生活の場としては、ご入居者様が役割を担い、交流の場を作りながら家事諸々を行い、ADLの維持や認知機能の低下を予防する為に生活リハビリを促進し残存機能を活かす取り組みを行っています。「できることはご自身で」を意識しております。職員一同、ご入居者様が活き活きと安心して生活を送ることができるよう共に生活して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は各ユニットフロアに掲示している。又会議の時に唱和し共有に繋げている。コロナ禍ということもあり、地域に根差したという点ではまだ関わりを深めていけない点が課題としてあります。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現状は入居者様の外出支援自体が難しく地域との交流の場を作ることが難しいです。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症の勉強会を行っていたが、現在は書面開催になっており資料提供が主だが電話でお話しを伺う機会を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面開催となっており書面にて取り組みや現状を伝えている。ご家族様や地域包括等・町内会長等へは意見書を送付している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して地域包括支援センターの職員への参加を促し関係作りに努めている。書面での意見を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議を通して2ヶ月に1回は身体拘束廃止委員会を実施している。全体会議の中で研修を行い勉強会を行っている。言葉による抑制(スピーチロック)にも気を付けるよう研修の中で話し合いをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会と一緒に2ヶ月に1回会議を通して研修を行っている。		

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している入居者がいない為、制度に関する勉強会は実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書や重要事項説明書・重度化に関する指針など説明を行い、わからない所等確認をとりながら対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所入り口に意見箱を設けている。現状は運営推進会議にて意見書を配布しており、その中で意見や要望がある。反映できるように対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議等で運営に関しての意見を聞いたりしている。日常の業務の中で確認し対応できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間や働き方は可能な限り相談に応じている。定期的な面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人内の研修を行っている。Eケアラボを活用することで会議に参加できなかった職員も研修する機会を作ることができている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内にデイサービス、訪問看護、看護小規模多機能があるので交流しながら他の職種のことを知る機会がある。他者の事業所とは待機者の方への定期的連絡を通して話をする機会程度である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にできる限り入居施設やご家族様から情報を収集しご本人様にもお話を聞きながら安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	待機の段階から定期的に連絡を行い状況を伺いながら関係作りに努めている。入居前の段階でも改めて要望等のお話を聞き対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との話の中で、まず必要な支援を考え提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で本人のできることを見極めながらお手伝いをお願いしお互いに助け合う関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来訪時や電話でご本人様の日常生活状況を伝え、情報共有、相談をしている。ご本人様とご家族様の面会時には少しの時間、同席させていただき、双方の意思、要望確認を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	状況をみながら面会ができる時には行い家族様と過ごせるように対応している。携帯を持参している方や電話がかかってきた時にはお繋ぎして関係がとぎれないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は極力居室にこもらず、食卓兼談話室で過ごしていただき、脳トレや体操、家事を通して共に助け合い、相談しながらできるよう努めている。また、入居者様同士の相性も考慮し、トラブルに発展しないよう座席位置の考慮にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後であっても対応できることがあれば行っていきたく思っている。現状はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や様子から思いを把握し、ご本人様の意思を尊重し、できる限り実現できるよう支援している。困難な場合はご家族様から伺いご本人本位となるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は、ご家族様に生活歴等を記載していただき、職員間で周知すると共にご本人様との談話の中で知り得た情報等もご家族様に確認した上で記録に残すようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居当初は個人の記録の他に情報メモを作り嗜好や過ごし方等を把握し情報を共有している。カンファレンスでも状態の変化や気付きについて話し合い共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様1人ひとり担当制にし、担当者は責任を持って3ヶ月に1度モニタリングを実施。ユニットカンファレンスで話し合い、ご本人様、ご家族様の要望や医療連携等の指示を踏まえた上で介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録は確認して欲しい部分は印をつけて把握できるようにしている。、申し送り表、連絡ノート等を活用し、情報共有を行い実践や介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の生活状況の変化に応じてご家族様と相談し、訪問診療等の医療機関からの助言もいただきながら最適な生活を考えサービス提供ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在地域資源の活用は訪問理美容程度になっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望確認を行っている。月2回の訪問診療、週1回の訪問歯科、訪問看護で健康管理に努め、医療連携は24時間体制が図られている。また、必要に応じて各科の受診も受けられるよう支援している。		

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の訪問看護の看護師が週1回定期的に健康管理に来ている。看護師が計画作成も兼務している為、状況の把握ができており相談もしやすい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院した際には、アセスメントを提供している。ソーシャルワーカーと連絡を取り合い、情報の共有を図るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関する指針や現段階での看取りの考えをご家族様へ説明し書面での同意を頂いている。終末期にかかってきた際は、再度ご家族の意向を確認し主治医を交えて方針の共有を図るよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法を作成し掲示している。転倒等の事故にて受診が必要な場合の対応も周知して行っている。応急手当等の訓練はできていないが、eケアラボで視聴し学ぶことが出来るようになっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は実施しているが、火災の想定での実施だけになっている。賞味期限を把握し水や食べ物の備蓄もしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの生活環境や性格を考慮した上で、自尊心に配慮したケアの工夫に取り組んでいる。個人情報には外部に漏れないよう徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の状況に合わせて選択で答えられるような言葉掛けをしたりと工夫し自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のその時に合わせて食事の時間をずらしたりとご本人様のペースで過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選択できる方はご自身に選んで頂いている。職員が選ぶ時には同じ服ばかりにならないように配慮している。		

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握した上で平均をとって対応している。食事の下ごしらえや盛り付け、食後の片付け等は職員と共に行い、力を発揮していただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量摂取量の把握に努め、不足しないよう支援している。低下がみられた際は、個々の嗜好品を提供し、補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアの実施、できる限り自立を促し、状態に合わせて仕上げ介助している。夜間は義歯洗浄し、職員側でお預かりし、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、できる限り汚染なく過ごせるようトイレ誘導支援に努めている。トイレの場所に迷いが生じないようドアに目印を表示し、わかりやすくしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維、オリゴ糖等を取り入れ、排便促進に工夫している。また、3食前には30分程度のテレビ体操に参加していただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を個別に実施している。個々の嗜好に合わせて洗剤類を使用し、体調や気分に応じて翌日に変更する等の対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や活動量を把握した上で休憩時間を設けている。臥床時間が長くなり過ぎて夜間の不眠に繋がらないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をいつでもすぐに確認できるようファイルを作成し、処方される度に最新情報を確認、情報共有している。また、重要事項や症状の変化については医療連携サービス記録や連絡ノートに記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮した上で、一人ひとりにできる役割や脳トレ、カラオケ、手先を使う季節の装飾作り作業等を提供している。また、嗜好品は時折お届けしていただけるようご家族様へ依頼している。		

ツクイ札幌麻生グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ここ一年間は新型コロナウイルスの影響により外出行事も出来ず、希望に沿った外出支援はできなかった。必要不可欠な外出受診の対応のみとなってしまった。ご家族様の面会もお断りしていた最中だった為、協力支援も得られない状況であった。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様やご家族様の意向を伺い、管理が可能であれば少額所持できるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様やご家族様の希望により電話はいつでも掛けられるよう対応している。手紙でのやり取りの支援も行っている。テレビ通話を検討している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、温度湿度調整に配慮している。個々によって感じ方が違う為、平均をとって対応している。共用スペースは季節に合わせた装飾を行い、季節感を味わえるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間同士で寄り添える場所や空間の確保に努めている。共用空間なので居場所は固定せず、その時の好みの場所で過ごしていただけるよう支援している。席の配置にも考慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人様、ご家族様で話し合い、馴染みの使い慣れた家具等を持ち込んでいただき、居心地の良いスペースとなるよう工夫を凝らしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全面的にバリアフリー、手摺り設置により安全、安心して生活できるようになっている。各居室には表札と飾りを付け、わかりやすいよう工夫している。		

目標達成計画

事業所名 ツクイ札幌麻生

作成日：令和 4年 7月 31日

市町村受理日：令和 4年 8月 4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災を想定した避難訓練は実施できているが、水害や地震による想定外の訓練が実施できていない。備蓄は行っているが再度見直しが必要。	水害や地震を想定した避難訓練を行う。	避難訓練を会議帯で研修を含めて実施する。備蓄の場所、賞味期限等の在庫管理を行い明確にわかるように保管する。カセットコンロ等の物品も同じ場所に保管し動線を一つにする。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。